
星に願いを

春乃 璃紗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星に願いを

【Nコード】

N5617E

【作者名】

春乃 璃紗

【あらすじ】

七夕小説企画『星に願いを』に参加させて頂きました。このお話は、ちよっとおばかさんの女の子が大好きな先輩を追いかける、というお話です。お時間があればお読み下さい。

どしゃ降り雨の水曜日。
4時限目の数学。

「おい、聞いてんのか？」

あと少し。

「…渋谷、窓を閉めてこの公式を答えろって」

あともう少し。

「…渋谷、いい加げ『来たっ！』…」

『せーんぱあーいつ！』

「渋谷！授業中だぞ！」

『おはよーい、まあーす!』

「…あー、おはよ」

(…! 今日も男前!)

く星に願いを

「渋谷、ちゃんと反省してるのか?」

『…あい。』

「じゃあ、何が原因で反省文書くのか言ってみろ。」

『今日の4時限目、』

「うん、」

『どしゃ降り雨なのに、』

「うん、」

『先輩がワイシャツで学校来たからです。』

「…うん？」

『傘もささないから透けてるし、髪濡れてセクシーだし！』

「…」

『鼻血もんだよね、あれは！』

「…」

『ね！先生！』

「…ああそうだね。」

（何でこんな生徒の担当なんだろう）

会議室で反省文を書き終えて、先生から解放されやっと学校を出れた。

（もう、夕日が眩しいじゃんか！）

自転車をこぎながら、

何で先生は先輩のフェロモンがムンムンな事に気が付かないんだとか、

何で先輩はあんなに綺麗な筋肉のつき方なのかとか、

色々考えてたら前方100メートル先に先輩の後ろ姿発見！

猫背でそんなに背は高くなくて、髪が真っ黒でだるそうに歩くあの姿。

（見間違える訳がありません！）

マッハでペダルをこいで先輩の後を追う。

（別に必死になりすぎて信号無視とかしてないし！）

『せーんぱい！』

「うわ！…びびった。」

後ろから声をかけたら、ただでさえ大きな目を、もっと大きくして振り返った。

（そんな顔も男前なんだなー！）

『今帰りなんですか？よければ一緒にか

「いや、遠慮しとく」…。」

まだ言い終わらない内に否定ですか。

『なんですかー。一緒に帰りましょうよー。』

「名前も何も知らない奴と帰るほど怖いもの知らずじゃないの、俺。

」

『…え、』

「じゃ、ばいば『2年4組31番、渋谷のぞみ！得意科目は保健体育で、えへ、嫌いな科目は理科全般です！』い…」

先輩は私を見て、また目を丸くした。

（あは、先輩かわいー！）

（どうした、この女！）

『もー！あたしのことが知りたいんだったら早く言って下さいよー！照れ屋さんなんですわね！』

「いや、そういう意味じゃなくて。」

『え、だって今、』

「確かに俺が言ったけど、意味の受け取り方が違う。」

『先輩の為に、正直に得意科目は保健体育って言ったのにダメなんですかー？』

「だめ。」

（保健体育とか、ただエロいだけだろ。）

『じゃあ、どーやったら一緒に帰ってくれますか？』

うーん、って言って先輩は空を見た。

「…お前苦手なの理科だっけ？」

『はい！』

「じゃあ、星の名前言えたら一緒に帰ってやる。」

そう言って、先輩はいたずらな笑顔で空を指差した。

そこには、まだ少し明るい紫の空に小さく光る星があった。
昼間に雨が上がったせいか、いつもよりも輝いて見える。

『星の名前なんて知りませんよ、あたし！』

「じゃあ、お前とは帰らない。」

先輩はくしゃつと笑って、駅のある方向に歩き出した。

『ほ、北極星！』

先輩が笑って振り返る。

「どの星が？」

え、わかんないよ！あたしが戸惑っていると、また先輩は歩き出した。

（ああ、先輩が帰っちゃう！）

『ベガ！カシオペア！』
また振り返って笑う。

「だから、どの星が？」

あたしはさっきより少し暗くなった空を見上げて、一際目立つ星を選んだ。

『あれとあれが！』

「…適當すぎるだろ！」

（だって一緒に帰りたいんだもん！）

「ちゃんと、どれがなんて名前の星なのか言えるようになったら帰ってやる。ばいばーい。」

先輩は最後に、最低でも5つ覚えろよって言って帰ってしまった。

（こうなったら、覚えてやろーじゃないのー！）

あたしはまた、ペダルをこいでまずは、本屋さんで初心者向けの本を入手して家に帰った。

そして部屋のベランダに出て、本と星空をにらめっこ。

1日でも早く、先輩と一緒に帰れますように。

あわよくば、手を繋いでいちゃいちゃしながら帰れますように。

あ、あたしの自転車でふたり乗りでもいいなあ。

そんな願いも込めながら、猛勉強。

天に輝く何億ものお星様。

どうか、どうかあたしの願いを叶えて！

く星に願いを

（お願いだから、名札を付けて！）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5617e/>

星に願いを

2010年10月10日04時50分発行